（別紙様式）

令和３年度　　学 校 評 価 シ ー ト

学校名：和歌山県立紀北工業高等学校　学校長名：揚　村　典　生　㊞

めざす学校像 育てたい生徒像	・教科の学習および特別教育活動等の適切な指導により個人の能力を充分伸長させ、勤労愛好と協同一致の精神を育成し、かつ、礼儀と責任を重んずる気風を養成する。 ・技術人として肝要な合理的、科学的、創造的精神を養い、規律を重んじ、質実剛健有能で誠実な産業人を育成する。

本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	１　授業の充実・改善を行い、主体的な学習習慣と確かな学力の定着を図る。
	２　基本的生活習慣を確立させ、心身の成長と規範意識の向上に努める。また、感染症等の対策を万全にし、安全・安心を担保する。
	３　工業高校として特色ある学校づくりを推進し、地域連携や広報の充実を図る。
	４　地域の企業等との連携を密にして産業を支える人材を育成する。

中期的な目標	１　地域貢献に資する人材を育成する。 ・地域連携や地域貢献活動、技術ボランティア等を継続充実させる。 ・ものづくりを通しての小中学生との交流や地域企業との連携を深める。 ・地域防災活動の拠点としての役割を果たす。 ２　地域産業に関わる人材を育成するためのカリキュラムを推進する。 ３　就職と進学（工学系)の進路実現を可能にする教育活動を充実させる。 ・就職希望者全員の第1志望企業の内定、県内就職率70％以上を目指す。 ・進学希望者の第1志望合格100％を目指す。
学校評価の結果と改善方策の公表の方法	学校運営協議会等で取組を説明し、意見をいただくとともに、ホームページ等により評価結果等を公表する。さらに地域や保護者等に対して、分かりやすく、より広く公表できるよう努める。

達成度		
	Ａ	十分に達成した。（８０％以上）
	Ｂ	概ね達成した。（６０％以上）
	Ｃ	あまり十分でない。（４０％以上）
	Ｄ	不十分である。（４０％未満）

自　己　評　価

番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
	重点目標				**年度評価（　月　日現在）**		
１	生徒は穏やかであり、授業は円滑に行われているが、習熟度授業や個別指導などにより基礎学力の定着を図る必要がある。また生徒のやる気をさらに引き出し、学習意欲の向上と主体的な学びを実現できるような授業を展開するため、教科間で連携して研鑽を積む必要がある。	ICT 機器の活用やグループ学習などによる教育活動を積極的に実践し、生徒の主体的・協働的な学びとなるような授業改善に取り組んでいるか。生徒が意欲的に学習できる魅力ある授業となっているか。	授業規律の定着 家庭学習習慣の定着 研究授業や公開授業を行い、授業方法の研究を図る 生徒による授業評価の効率的な活用 学び直しの充実と、学びに向かう力の醸成を計画的に実施	授業開始時の教科書・ノートの準備の徹底、レポート指導等の充実と成績の変化 校内外に向けた研究授業、公開授業を実施 生徒による授業評価を実施し、授業の改善・検証の会議を実施 苦手の克服と生徒個々の成果を確認、評価	・コロナ禍において ICT 機器を用いての授業づくりが急速に必要となった。せざるを得ない状況で一歩前進した。 ・コロナ禍でもあり、研究授業などの実施が少なく今後の大きな課題である。 ・授業改善については機会がある度にお願いしてきたが依然として改善の意識が低い教科もある。 ・生徒のやる気を醸成するのは難しい	B	・教職員や生徒の意識を高め、授業規律を確立させ、さらに学習環境を整える。 ・経験年数別研修等を活用し、計画的に教職員の研修についての意識を高める。 ・ICT 機器を用いての授業づくりの必要性をさらに認識し推進に努める。 ・生徒一人一人をしっかりとアセスメントし、やる気を醸成する
２	挨拶、身だしなみ等、生徒の規範意識や態度はかなり改善している。今後も基本的生活習慣の確立やコミュニケーション能力の育成に努め、自主自律的精神の充実や社会に通じる生きる力の育成を、組織的に指導していくことが重要である 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため万全の対応が必要である・、	基本的生活習慣の確立や時間を守ること、挨拶等ができているか。教員や仲間に自分の気持ちや考えを伝えられているか。相手を思いやる気持ちを大切にした行動ができているか。感染リスクの低減を十分に図っているか。	家庭連絡の徹底と生活習慣の確立 職員全員による挨拶と声かけの奨励、登校指導及び校内巡視 いじめ未然防止等に係る生徒への関わりや教職員の人権教育に係る意識と指導力の向上 近隣校等との情報共有を図り、関係機関と連携を深める。	三者面談や保護者との連絡の回数、遅刻生徒数の前年比10％の減少 全職員からの積極的な声がけ100％実施、生徒指導件数を0に近づける 年3回以上の研修を行い、対応マニュアルの確認や人権教育内容の充実改善 新型コロナウイルス感染症罹患者０名	・生徒からの情報だけで保護者が判断し、学校に不信感を持つケースや、まめに連絡を取りたくても、家庭連絡がつかないことが多々あった。 ・生徒指導件数は減少したが、同じ生徒が問題行動を繰り返すことがあった。 ・相手がいやがる迷惑行為があった。 ・生徒や教職員の行動や意識のおかげで、コロナ感染症罹患者極めて少ない。	**B**	・粘り強く､家庭連絡を行い、家庭と一体となった指導に努める。 ・挨拶の大切さをさらに理解させ、粘り強く指導する。 ・学校活動すべてを通じ、特別支援教育の視点を持って、他者を正しく理解し、尊重し合えるよう努める。教職員は正確にアセスメントし、共通理解できるようにする。 ・自ら感染リスクを減じられる行動が取れるようにする。
３	実験・実習等を通して匠の技能や新しい技術の習得、ものづくりの楽しさを深め、資格の取得等を促進している。また安全教育の充実も求められている。その成果や本校の魅力を保護者や地域、中学生に積極的に発信するとともに、より地域に開かれた学校づくりを推進していく必要がある。	地域社会に意欲的に貢献しようとする態度や資質、能力が育成されているか。中学生の希望する進路先となり得ているか。 事故が起こらないような環境作りが出来ているか。	ものづくりを中心とした教員研修の充実 地域企業技術者による講習 ホームページ等を活用した積極的な情報発信 広報活動の充実と中学校との情報交換の徹底 実習・実験前の安全教育、事故防止事前チェック	夏季研修等を利用した技術講習会や、事業所での研修への参加 地域企業技術者の招聘 ホームページのリニューアルやマンスリータイムズ等の地域配布、中学校教員対象の学校見学会を実施 事故・怪我等件数０	・実習等における大きな事故はなかったが、さらに意識を高める必要がある。 ・工業高校の基礎基本である「ものづくり」を通じ人間形成を図る。教員一人一人の技量を高める研修等の機会をさらに増やす必要がある。 ・あらゆる機会をとらえ、工業高校の現状や利点を特に中学校関係者に知ってもらうよう努めた。	B	・教員の若返りにともない、技術やノウハウの伝承がより進むように取り組む。 ・本校の魅力を地域や中学校関係者および中学校生徒・保護者等に伝えるよう工夫する。 ・実習・実験等における事故防止を徹底する。特に、特別支援教育の視点を持って指導を要する生徒には、共通理解を持ちチームで取り組む。
４	現在の社会情勢から求人も増加し、就職内定率は100％を達成している。引き続き、望ましい勤労観・職業観や社会性を育成し、生徒が主体的に自己の進路を選択できるよう、より系統的、組織的なキャリア教育の充実に取り組んでいくことが重要である。	自ら目標を設定し進路選択が出来ているか。また職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基本的な力が身についているか。	個人面談や進路ガイダンス、応募前職場見学の実施 校友会や関係機関との連携を深める。「わかやま産業を支える人づくりプロジェクト」を積極的に推進する。 インターンシップの充実	就職内定率100％の確保と全員の第1志望企業の内定、早期離職者数0を目指す 工場実習、職場見学の実施 志望大学等進学率100％ 「わかやま産業を支える人づくりプロジェクト」の推進。生徒、保護者、企業等と連携を深めながら計画的に実施	・コロナ禍ではあったが、地域企業からの支援もあり、本年度も就職内定率１００％を達成することができた。また、早期離職者も０名であった。 ・校友会をはじめ関係機関との連携も深まり、計画的に勤労観の醸成ができた。 ・高等学校再編整備計画を機に教職員が学校課題について共通理解を図った。	A	・景気に左右されない実力をつけ、就職内定率１００％を目指す。 ・校友会をはじめ関係機関との連携もさらに深め、早期から計画的に勤労観の醸成を図り、早期離職者の防止に努める。 ・部活動を通じ、学校活性化を図るとともに、自己実現を果たせる学校づくりに努める

学　校　関　係　者　評　価

令和３年７月・１２月　実施

学校関係者からの意見・要望・評価等

・生徒による授業アンケート（７月）
　今後の教科指導にあたり一助となるように職員会議でデータを分析し、共通理解を図った。
　第２回学校運営協議会の議題として、各委員のご意見を聞くとともに本校の実情を正確に把握したうえで、今後の学校運営について話し合った。
　＊昨年度より、ほとんどの項目で、高い評価があった。

・生徒・保護者・教職員による学校評価（１２月実施）
サンプル数：生　徒　４０５名
　　　　　　保護者　３８０名
　　　　　　教職員　　２９名

　今後の学校運営、分掌運営、教科指導等にあたり一助となるように職員会議でデータを分析し、共通理 解を図った。

　第３回学校運営協議会の議題として、各委員のご意見を聞くとともに本校の実情を正確に把握したうえで、今後の学校運営について話し合った。
　＊本校の強みや弱みを明確化し、次年度の学校運営に資する。
　＊特に近年、部活動や生徒会活動への積極的な参加率が減少傾向にある。部活動や生徒会活動などの自主活動をより活発化させ、学校活性化に繋げたい。
　＊地域の中学校における部活動への参加率の低迷は顕著なものであり、地域を巻き込んだ部活動あり方も模索する時期ではないか。

（生徒の意見）
　概ね高評価ではあるが、授業、生徒指導、や学校行事に関する運営等において、改善を期待している生徒の意見があった。

（保護者の意見）
　概ね高評価ではあるが、特に、生徒指導等における運営や施設・設備などにおいて、改善を期待している保護者の意見があった